

鶴ヶ島市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画

将来推計（仮）

【令和5年9月時点での推計】

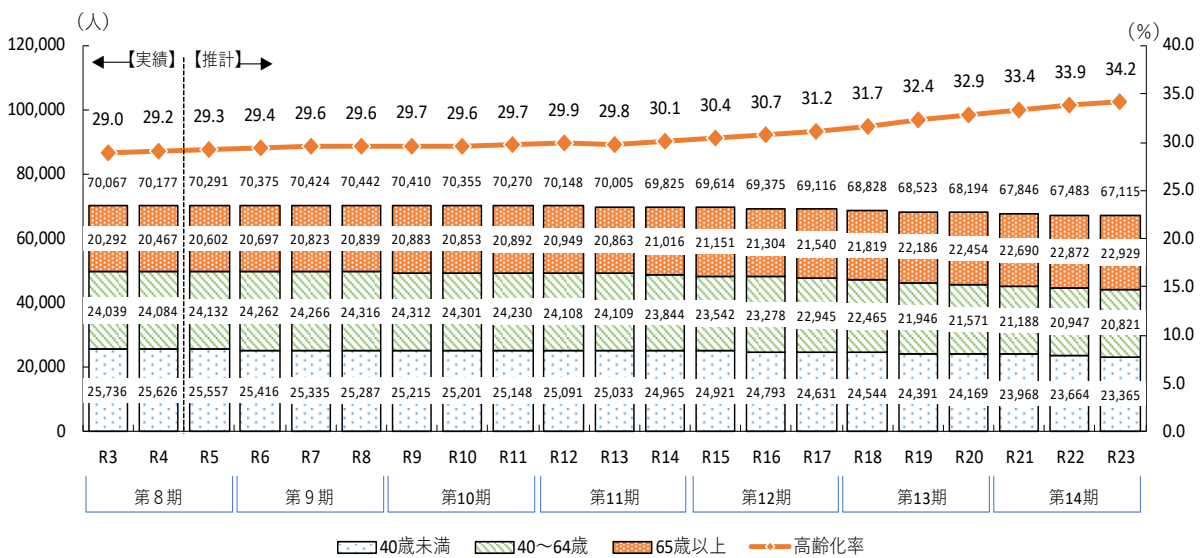
1 人口推計

(1) 総人口及び年齢区分別人口

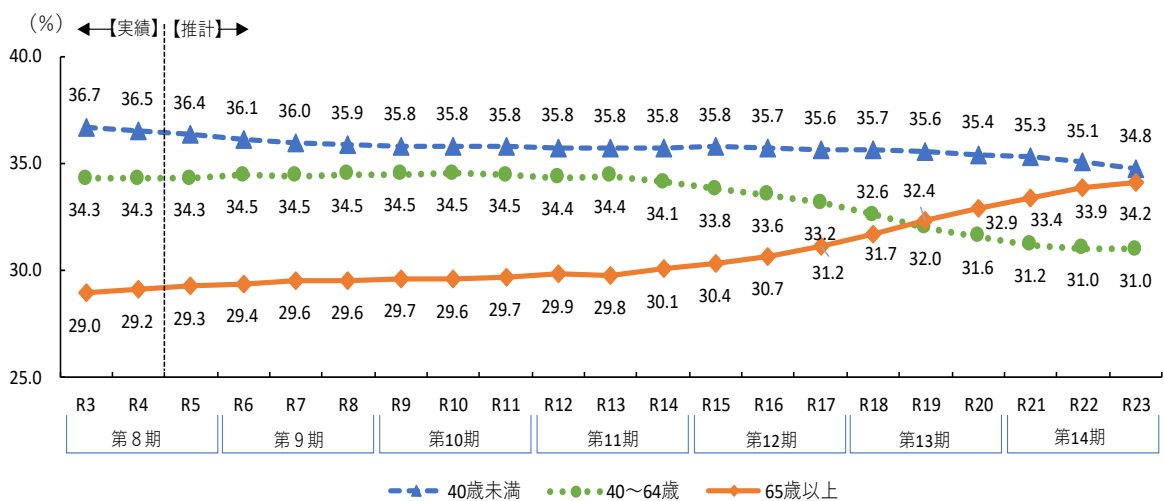
本市の人口を住民基本台帳人口を基にコーホート変化率法にて推計すると、総人口は微増傾向が続き、計画最終年度の令和8年度は70,442人と推計されます。その後は減少に転じて、令和22年度には67,483人になると推計されます。

年齢区分ごとにみると、40歳未満人口は減少傾向が続き、40歳から64歳人口（第2号被保険者）は令和8年まで増加した後、減少に転じると推計されます。65歳以上の高齢者（第1号被保険者）は今後も増加傾向が続くと推計され、団塊ジュニア世代が高齢者となる令和22年度には高齢化率も33.9%まで上昇するものと見込まれます。

■総人口及び高齢化率の推計



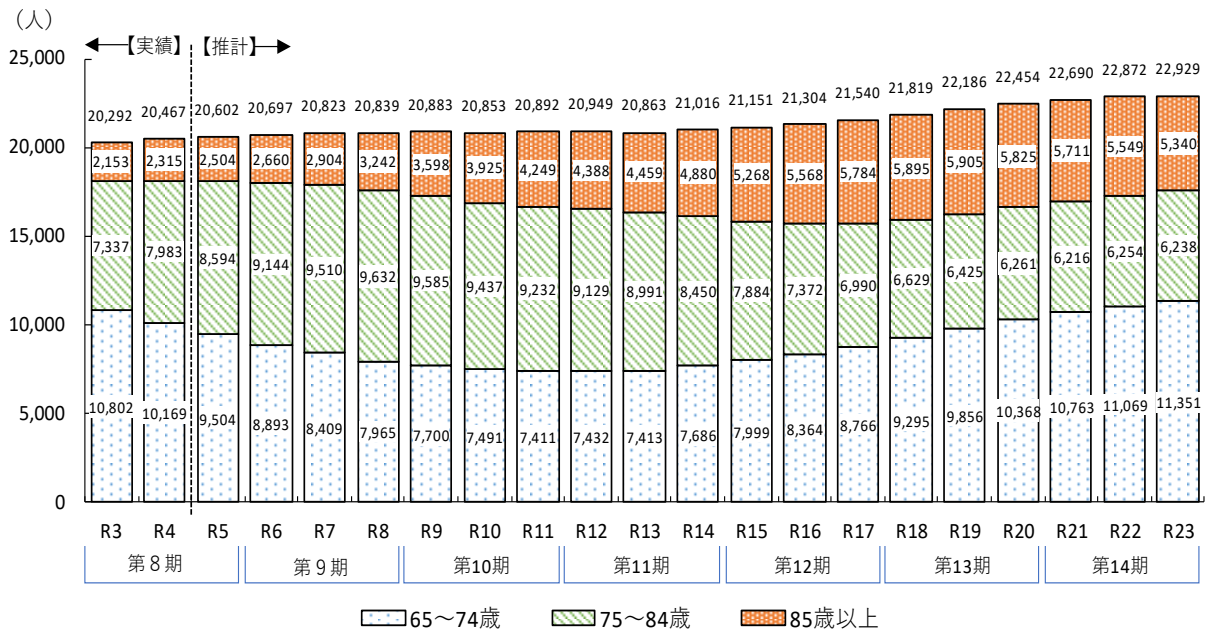
■年齢区分別人口割合の推計



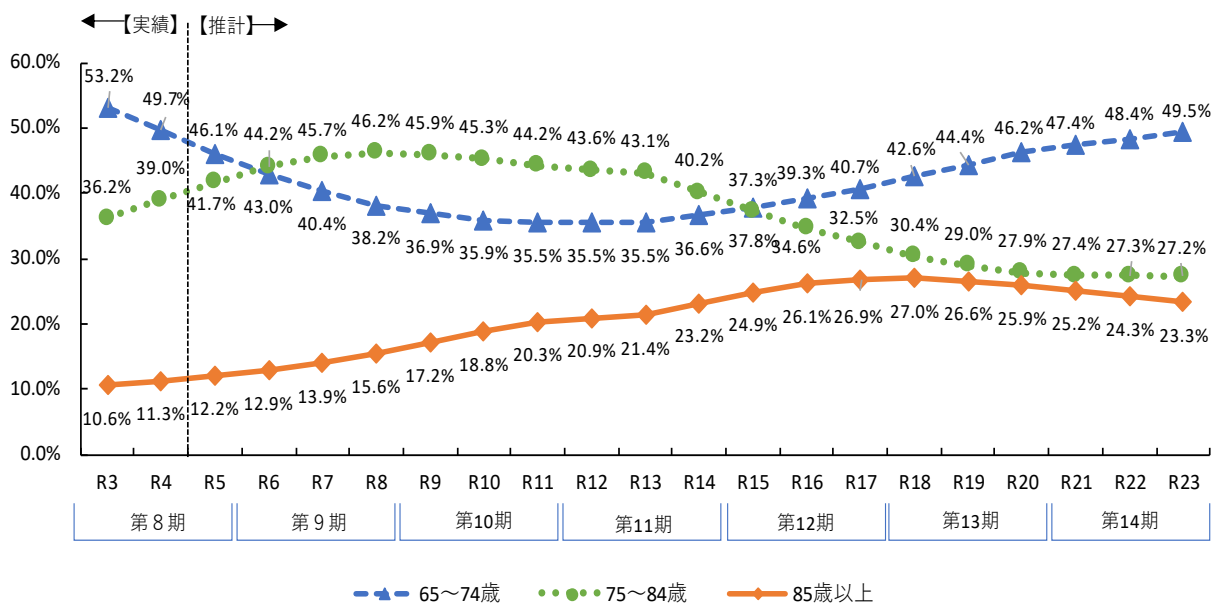
(2) 高齢者人口

高齢者人口の年齢区分ごとの推計結果をみると、65歳から74歳の前期高齢者数は令和13年度まで減少した後、増加傾向に転じると推計されます。75歳から84歳人口は令和8年度まで増加した後、減少に転じると見込まれます。85歳以上人口は今後も増加し続け、令和19年度をピークに減少に転じると推計されます。

■高齢者人口の推計



■年齢区分別高齢者人口割合の推計

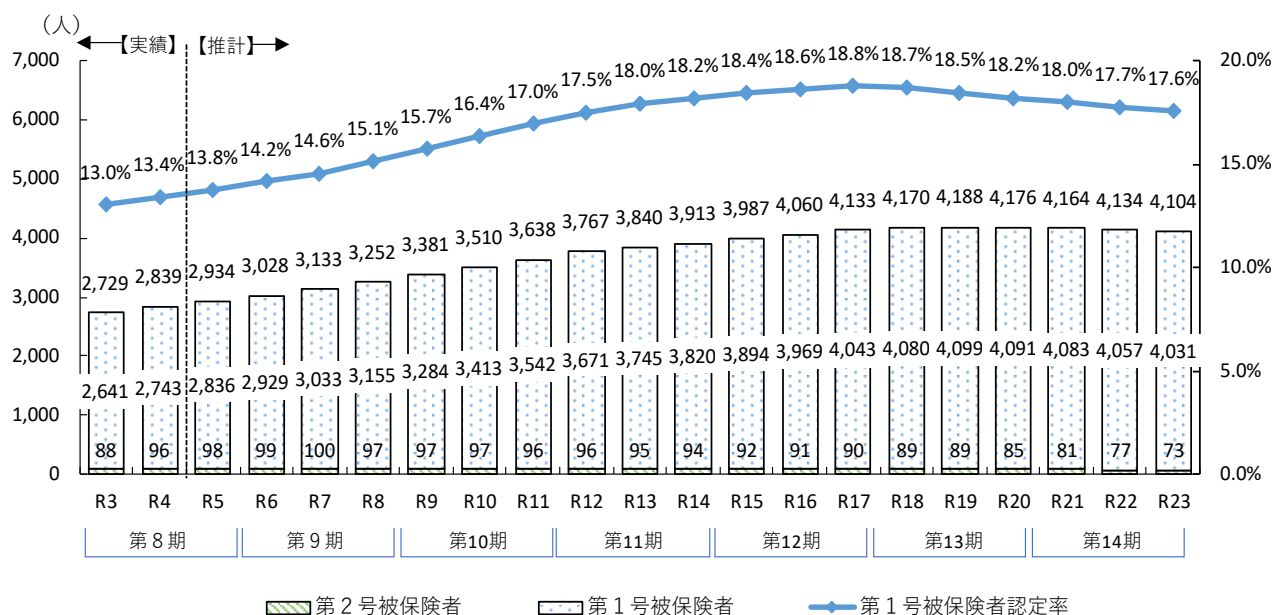


2 要支援・要介護認定者数の推計

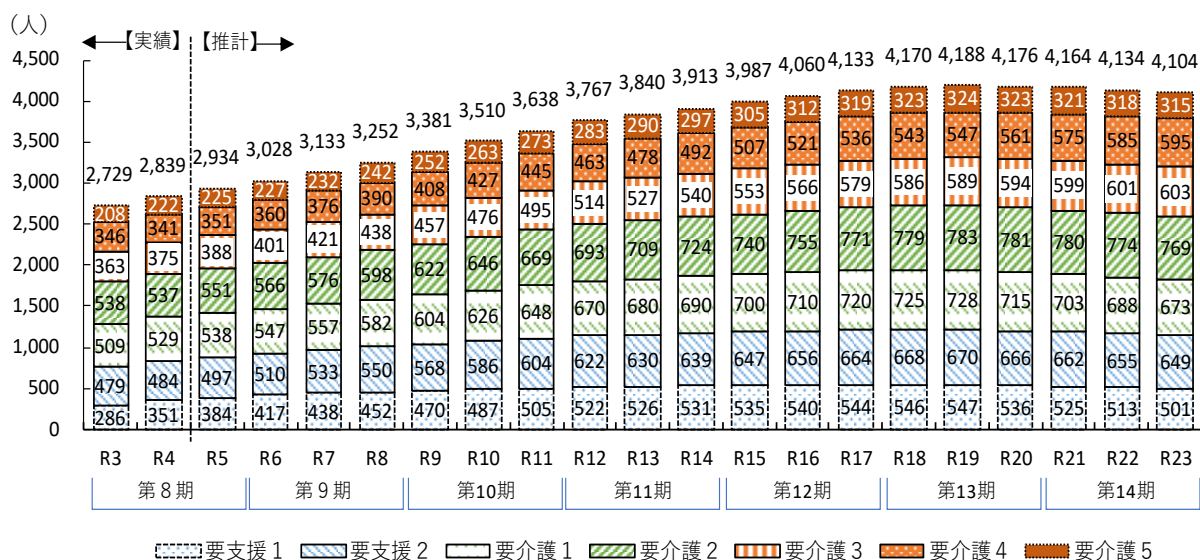
要支援・要介護認定者数の推計結果をみると、高齢者人口が微増傾向の中、後期高齢者数の増加に伴い認定率が上昇し、令和8年度には3,252人まで増加、第1号被保険者における認定率も15.1%まで上昇すると推計されます。今後も認定者数は令和19年度まで、認定率は令和17年度まで増加傾向が続くと見込まれ、以降は減少傾向に転じると推計されます。

要介護度別にみると、令和19年度まではどの要介護度も一定割合で増加していますが、減少傾向に転じる令和20年以降も、要介護3以上の認定者数は増加傾向が続くと推計されます。

■要支援・要介護認定者数及び認定率の推計



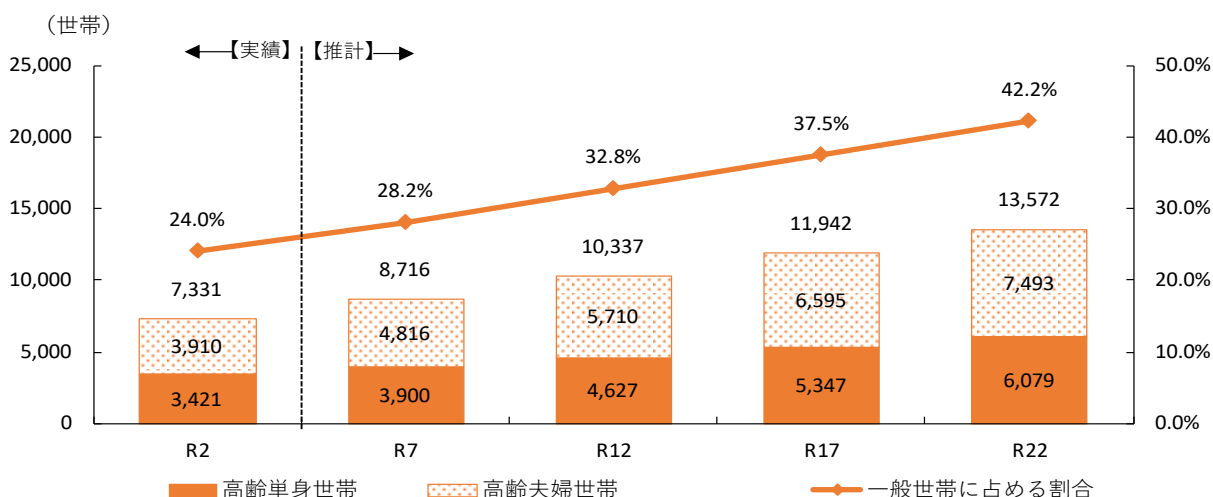
■要介護度別認定者数の推計



3 高齢者のみ世帯の推計

高齢者のみ世帯（高齢単身世帯・高齢夫婦世帯）の世帯数について、国勢調査を基に推計すると、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯ともに増加し続け、団塊ジュニア世代が高齢者となる令和22年には高齢単身世帯が6,079世帯、高齢夫婦世帯が7,493世帯、合わせて13,572世帯となり、一般世帯に占める割合は4割を超えると推計されます。

■高齢者のみ世帯数及び一般世帯に占める割合の推計



4 認知症高齢者数の推計

認知症高齢者数について、認知症高齢者自立度Ⅱ以上の性別・年齢別出現率を将来の高齢者人口推計値に乗じて算出したところ、後期高齢者の割合が上昇することに伴い、認知症高齢者数は令和20年度まで増加していくことが見込まれ、令和8年度で2,230人、令和22年度で3,085人と推計されます。

■認知症高齢者数及び出現率の推計

